

(海外)・国内) 出張報告書 (学生用)

2018 年 7 月 2 日提出

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏名   | 笹岡 一慶                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 所属   | 獣医内科学教室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 学年   | 博士課程 3 年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 出張先  | 米国獣医内科学アカデミー年次大会<br>American College of Veterinary Internal Medicine Forum 2018,<br>Seattle, Washington: Washington State Convention Center                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 出張期間 | 6 月 13 日 (水) 札幌-成田-シアトル (シアトル 13 日着)<br>- 6 月 18 日 (月) シアトル-成田-札幌 (シアトル 17 日発)                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 目的   | 【目的】学会発表及び米国獣医療の動向調査<br>米国獣医内科学アカデミー年次大会は臨床獣医学における権威ある国際学会で、申請者は本学会において学会発表する予定である。題目は「Trace Elemental Profiles of Serum and Cerebrospinal Fluid in Dogs with Idiopathic Epilepsy」であり、本発表は犬の特発性てんかんにおける微量元素を解析した初の報告であり、神経病学・栄養学の両分野においてそのインパクトは大きいものと考えられる。<br>また、米国獣医内科学アカデミー年次大会では獣医学における最先端の知見が数多く発表される。臨床獣医学の動向を知る上で、なるべく多くの発表および議論を聞くことは、自らの知識の整理となるとともに、今後の研究活動、臨床活動にとって必須であると考えられる。 |

## 活動内容報告

### 参加学会概要

今回参加した米国獣医内科学アカデミー年次大会 (American College of Veterinary Internal Medicine Forum、以下 ACVIM フォーラム、Fig.1) は、獣医内科学における世界最大の学会であり、毎年 6 月頃に開催される。獣医学のみならず、各分野の最先端を紹介する State-of-the-art (SOTA) や、教育口演、口頭発表やポスター発表、専門家による臨床指針である Consensus Statement など、様々なプログラムが用意されており、世界各国の獣医学領域の臨床家と研究者が集まる。各分野においては専門医のための学会という色合いが強いが、一般臨床医向けの卒後教育に特化したプログラムもある。今回で 36 回目の開催となる。



Fig.1 ACVIM ロゴ

### シアトル開催の ACVIM フォーラム 2018

ACVIM フォーラムはナショナルハーバー (2017)、デンバー (2011、2016)、インディアンポリス (2015)、ナッシュビル (2014)、ニューオーリンズ (2012)、アナハイム (2010)、モントリオール (2009) そして今回開催されたシアトル (2013、2018) と北米にて開催されてきた。本年度の開催地であるワシントン州シアトルはアメリカの太平洋岸北西部の都市であり、海と坂と緑に溢れた街である。街中には多くの人種が見受けられたが、他の都市よりは白人の比率が多く、7 割程度とのことであった (Fig.2)。ボーイング社やアマゾン、マイクロソフトの本拠地や本社があることも関係しているかもしれない。そのため、治安は安全であり、道中・宿泊中も危険に遭遇することはなかった。しかしながら、24 時間営業のコンビニエンスストアの前にて浮浪者に何か買ってくれと言われた際には、格差の大きな社会の縮図を見たように感じた。また、市内の移動は徒歩もしくはバスであり、シアトル・タコマ国際空港からも電車にて直通 40 分程度でシアトル市

内に到着するなど、交通の便が良いのも特徴である。

今回の出張において、道を事前に調べておいたことも重要であったが、持参の iPad に Google map のオフラインマップをダウンロードして行ったことが、道案内に役立った。インターネット環境がなくても自分の位置を GPS で把握することができるので、オフラインマップさえあれば路上でも地図上で自分の位置を表示することが可能である。ただし、経路検索はオンライン機能なので検索はできないことに留意する必要がある、不意の経路変更にはインターネット環境が必須となる。今回はモバイル Wi-Fi の調子が悪かったため、大変役に立った。



Fig.2 シアトルの街並み

学会会場に向かう道すがら撮影

スターバックスコーヒーはシアトルが発祥の地

## 学会会場について

ワシントン州立コンベンションセンターはシアトルのダウンタウンの中心地にあるアメリカ北西部で最大の会議場である。パイクストリートをまたぐようにして建てられたスカイブリッジを特徴とする建物で、ガラスを多用し積極的な採光と館内に配置された植物により有機的なイメージを与えている。

学会のイメージカラーが今回ライトブルーとライトグリーンであり、会場全体がビビットな印象に統一されていて、日本の学会とは異なるイベント感が感じられた (Fig.3 上)。大会場が5つ、小会場が1つ以上あり、専門分野毎に並列でプログラムが進行されていた。この点は多くの学会と変わらない。学会会場の中で特筆すべきは、Cat

Lounge (いわゆる猫カフェ) や Bark Park (ドックラン) など、動物とのふれあいができるエリアが会場内に設置されていることであり、獣医の学会であることを感じさせる非常に良い光景を与えていた (Fig.3 下)。

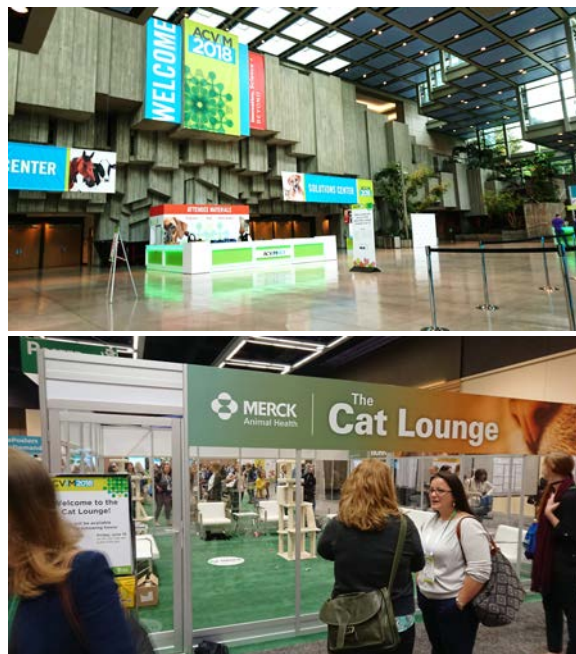


Fig.3 会場内の様子

平日のコンgresバック受渡し場所は人影がまばら  
(上)、Cat Lounge に集まる人々 (下)

## ポスター発表と e-Poster についての考察

今回の学会では神経病学の分野において特発性てんかんにおける微量元素の変動についてポスター発表を行った。本発表の内容はあくまで示唆的なものに留まっていたが、ポスターのコアタイムには専門医が数人来てくれて話をする事ができた。

ACVIM2018 からポスター発表が e-Poster の形式となった。昨年度までは紙とデジタルの併用であったが、今年度から全面的にデジタル化となった。大きなメリットとして運営者には省スペース化、発表者はポスター自体を持ち運ぶ必要がない、参加者はいつでも手元のデバイスでポスター内容を見られるという点が挙げられる。一方、ポスターが貼ってある会場をぶらぶらするという楽しみはなくなってしまった。また、軽食とともにポスターを見るというワイン&チーズという

時間があったのだが、ポスターが固定で貼ってあるわけではないためそのタイミングでのディスカッションは困難となった。総じて、興味のあるものには目が向くが、たまたまの出会いはなくなっていると感じた。電子辞書と紙の辞書の違いと考えると分かりやすい。

また、今年度初めて本格導入ということで掲示形式に関する事前情報が一切なかった。会場に行ってみて初めてモニターの大きさや縦横比が分かったのである。この点は今年度のみ問題であろうと思う。思った以上にモニターが小さく、発表のしにくさは感じた。



Fig.4 e-Poster 会場の様子

10つのTheaterにはiPadとモニターが設置（左）、自前のデバイスだけではなく会場内のOnDemandでもポスターを閲覧できる（右）

#### ACVIM 獣医神経病

発表の内容や教育講演はどれも興味深いもので

あった。今回の発表では既存の抗てんかん薬の新規投与経路としての経皮吸収の話題が多く、今後のトレンドであろう。

また、学会会場にて日本人の方々と合う機会が多く、今後の繋がりを作ることに大いに役立ったことは間違いない。インターンシップに関する足がかりを得たことも今回の学会の収穫であったと思う。

#### まとめ

本学会における発表と国際学会への参加、海外渡航は非常に実りの多いものであった。自らの知見を広げることは座学でも可能かもしれないが、世界の人々がどう考えているか、何を感じているのかは実際にその人に合ってみないと分からないものである。さらに、その人と知り合うことで臨床家としても研究者としても自らの幅を広げることができる。知識や知見を広げるという目的を達成できた以上に、今回の学会参加は自らの糧となったと感じている。

末尾になりましたが、スケジュールが厳しいにも関わらず最大限の支援をして頂いたリーディングプログラム関係者の皆様、今回の研究に協力していただいた毒性学教室の皆様、いつもお世話になっている内科診療科の皆様に深く感謝申し上げます。

|         |          |    |       |   |
|---------|----------|----|-------|---|
| 指導教員確認欄 | 所属・職・氏名： |    |       | 印 |
|         | 獣医内科学教室  | 教授 | 滝口 満喜 |   |

※1 電子媒体を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp